
『Magic World』

鑣 七花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『Magic World』

【Nコード】

N0609L

【作者名】

鑢 七花

【あらすじ】

『魔法無効化』っていう魔法でそれに気づいてないだけで学園で友人やヒロインとのかかわりでそのことに気づいて学園生活を送っていくにつれプロローグで出て来た女の子を好きになるけどそれが結構ヤバイやつに拉致られて友人やヒロインと一緒に助け出すってお話かなあ？

プロローグ

淡く白い光の中に俺は女性に話しかけられた。「この世界を守ってください。」

その女性が囁くように俺に話しかける。「え、俺が、この世界を？
まっしてくれ！教えてくれよ」

意識が遠くなる。

ジリリリリ！目覚まし時計の音で目が覚める。とても大事な夢を見ていた気がするが思い出そうにも頭に霧がかかったみたい思い出せない。

「まあ、いいか。思い出せないなら大事なことじゃないだろうし。
」起き上がって時計を見ると目覚ましの時刻より30分も遅い。二度寝をしたようだ。そして遅刻寸前だということに気がついた。

「一時限目は急げば間に合いそうだな・・・」そうして少し遅い朝ごはんを済ませ俺は少し急いで学園に向かった。

ああ自己紹介がまだだった俺の名前は天宮リク。魔法学園の二年生17歳だ。親が大魔法使いで俺は魔法が使えるはずなのだがどういっわけか魔法が使えない。

「まあ考えてもしょうがない。それよりも、遅刻は回避しないとな」
そうして俺は歩き出した。学園につくと校門の前に女の子が立っている。しばらく俺は遅刻寸前ということを忘れその女の子に見とれていたのかもしれない。

「あの、すいません。ここは魔法学園であってますか？」綺麗な声だな・・・

「え、ああ・・・うん、ここが魔法学園だけど、転校生？」

「はい。ニーナ・ルーネイトといいます。今日転校してきたばかり
だけどよろしく願いますね。」

まだこの時の俺はいつもの平凡な生活が激変することを全く予測も
しなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0609/>

『Magic World』

2010年10月21日20時53分発行